



## 「北海道建築士会 会員活動について」

札幌支部 種田 若菜

北海道建築士会に入会して6年程になります。当初は特に委員会活動に参加はしていませんでした。そんなところ3年程前より北海道建築士会女性委員会と札幌支部まちづくり委員会に所属する機会をいただきました。

女性委員会では、毎年「住教育セミナー」を行っています。昨年で5回目、今年はさらに飛躍し、全道へ発信していこうとしています。高校の家庭科教諭を対象に家庭科授業の「住」の分野における「生活空間のプランニング」の実習指導を実際の授業に反映できるようにと半日の講習で行っています。私の北海道建築士会での最初の委員会活動でした。初めての経験ということを含め、異業種の教育のプロの方に指導するということが、懇親会での意見交換などは、委員会活動に参加していなければできない貴重な体験です。



住教育セミナー

その他、毎年参加している全道大会のような大きな大会では、日頃あまり交流していない方との情報交換など、士会活動を通して色々な地域に足を運ぶことで、普通の旅とは違う新しい発見があ

り、楽しみとなりました。震災後の分科会を通して女性委員会では、建築士からみた災害対策という内容で継続的に議論していきたいという意向から「HUG」の実習を体験し、今年的女性建築士の集いにつなげる方向です。経験を次につなげることが社会に貢献できる可能性があることと感じます。

札幌支部まちづくり委員会では、一般市民も参加できるようなバスツアーを企画したり、「景観スペシャリスト養成講座」と題し年約6回×3年間に渡り、建築士に向けた講座を開催してきました。講座は多岐にわたり、講義の他、まち歩きなど、まち・人・生活・環境について、個人では得ることのできない知識や情報、ネットワークを得ることが出来ました。



景観スペシャリスト講座  
雪印種苗株式会社恵庭荘

会員活動は、時間が拘束されることもあります。個人の仕事では得ることの出来ない価値ある時間を体験出来ます。私は活動に参加し社会に対する建築士としての意識が変化しました。繋がることで社会に貢献できることが増え、生活にふくらみが出来ました。新しいことにチャレンジする勇氣さえあれば、人生にプラスが増えると思えます。

## 「委員会報告」

道東A（釧路支部）  
金子ゆかり

2013年1月26日、女性委員会の第一回目の委員会が開催されました。出席委員は9名、長谷川理事にもご出席頂き、今年度の計画について活発な議論がなされました。

まずは全道大会についてですが、分科会では継続的なテーマである「素材」を、恵庭大会ならではの「外構素材」に着目して検討する方向性が打ち出されました。

また「集い」については、昨今注目されている「HUG」（避難所運営ゲーム）を札幌で行う事が決定いたしました。開催時期については、少しでも多くの会員が出席しやすい時期を調査し、委員会内で今後調整して行く予定です。

3部会活動の企画については、「高齢者とまちづくり」について全国女性建築士連絡協議会と連携して資料の収集などに取り組み事例発表や冊子の発行などを検討しています。

また、「子どもと建築」では継続して行っている全道高等学校家庭科教育研究協議会との連携事業を行う他、「北国にふさわしい住まいづくり」住まい方を考える住教育セミナーを9月ごろの開催に向けて準備を行ってゆく予定です。

そのほか、各ブロックから今年度の活動計画が発表されました。道央Aブロックの小樽の雪明り事業や、道北ブロック、旭川の「ものづくり」の取組、道東Aブロックの防災事業、道東Bブロックの見学会の企画など、紙面では紹介しきれない盛り沢山な内容でした。

全道大会はもちろん、全国大会や全国女性建築士連絡協議会への参加など、積極的に参加するだけでなく、女性建築士ならではの視点で社会に提言できる事業を今年度も多く実施して行けるよう、小委員会なども開催しながら、検討を重ねて参ります。